

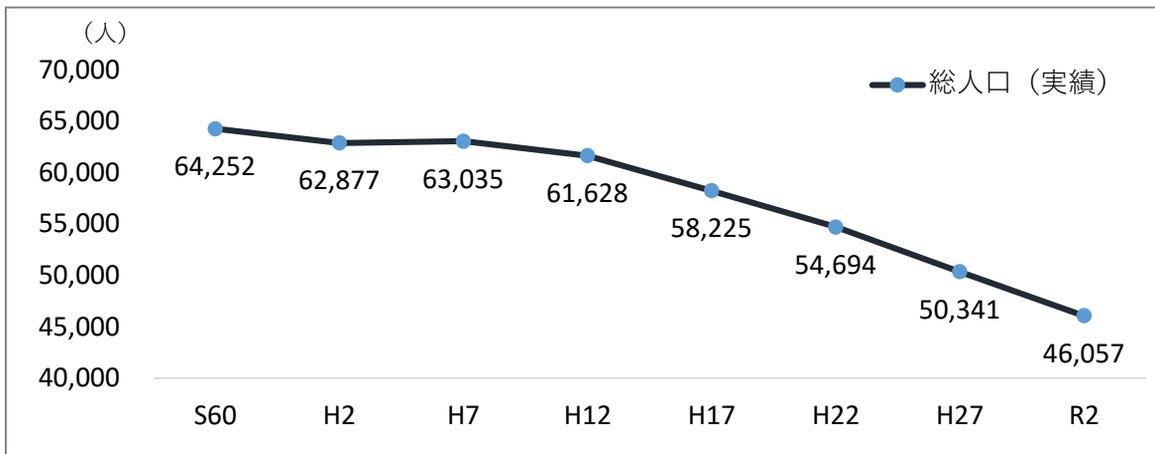
# 志摩市の人口の状況

令和7年5月時点

令和2（2020）年国勢調査の結果のほか、直近の統計調査の結果により、志摩市の人口の状況を確認します。

## （1）総人口の推移

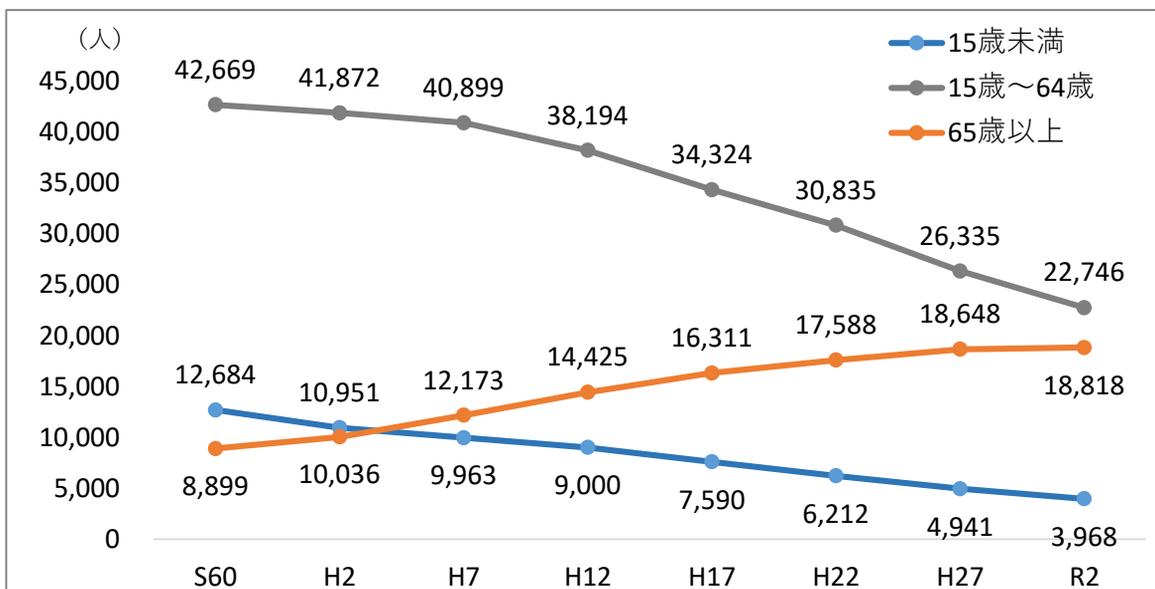
令和2年国勢調査の結果、46,057人となり、平成27年調査からの5年間で約4,000人の人口が減少しています。



出典：「国勢調査」

## （2）年齢3区分別人口の推移

平成27年時点と比べ、15歳未満の年少人口は約20%減少し、15歳～64歳の生産年齢人口は約15%減少しています。一方、65歳以上人口は微増となっています。



出典：「国勢調査」

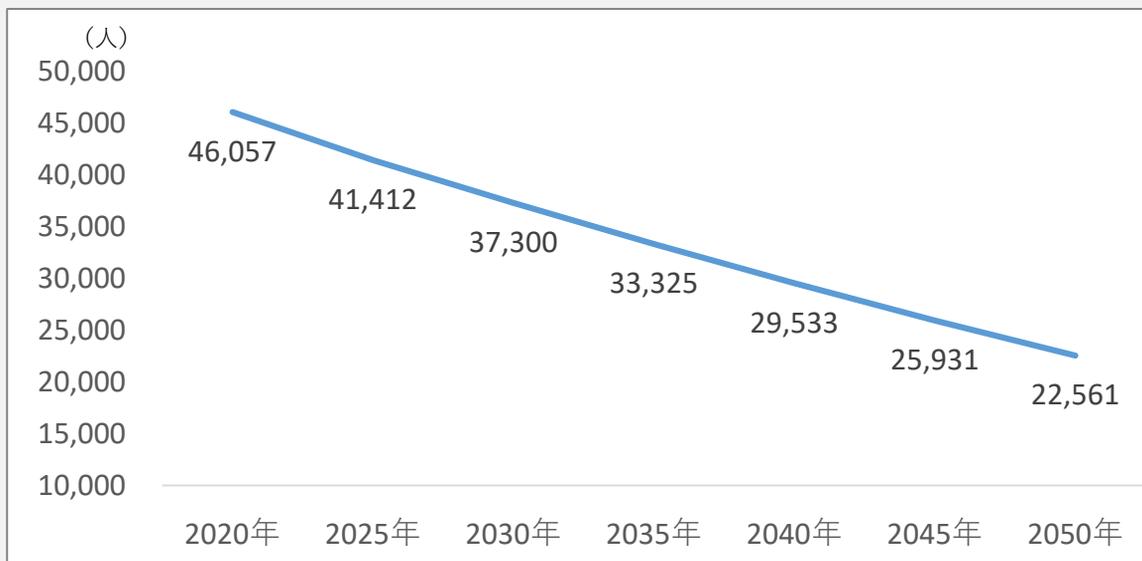
## 【参考】国立社会保障・人口問題研究所

### 「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」

国立社会保障・人口問題研究所が実施した、2020年の国勢調査に基づいて、都道府県別・市区町村別の将来の人口を推計したものです。2020年から2050年までの5年ごと30年間について、男女・5歳階級別に推計し、データが公表されています。

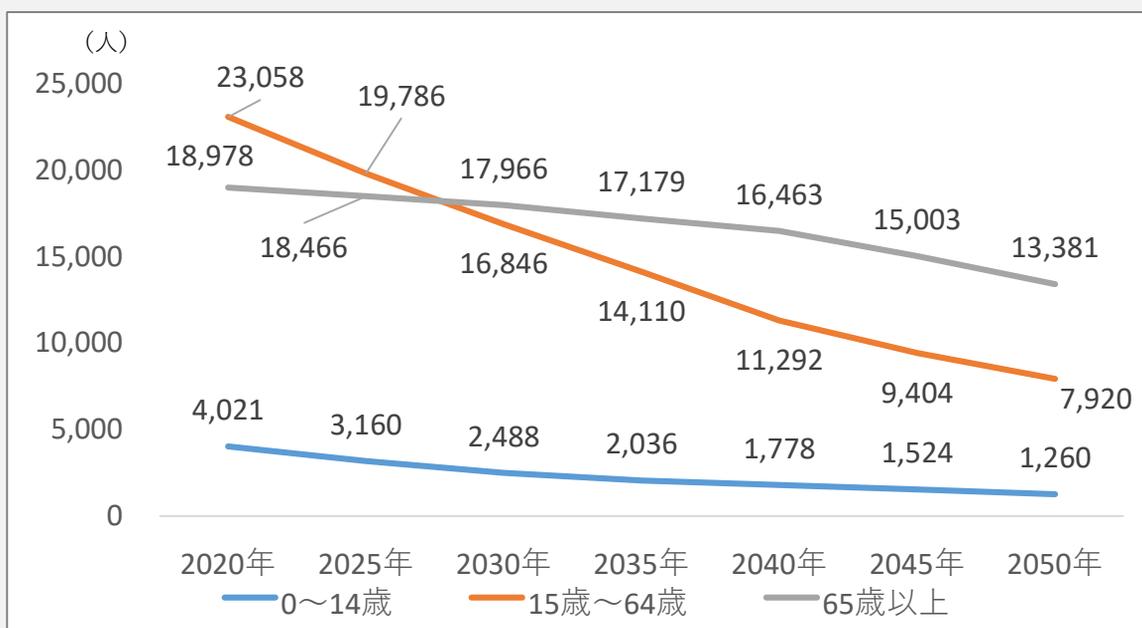
志摩市の総人口と年齢3区分別人口の推計結果は、以下のとおりです。

#### ①総人口



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」

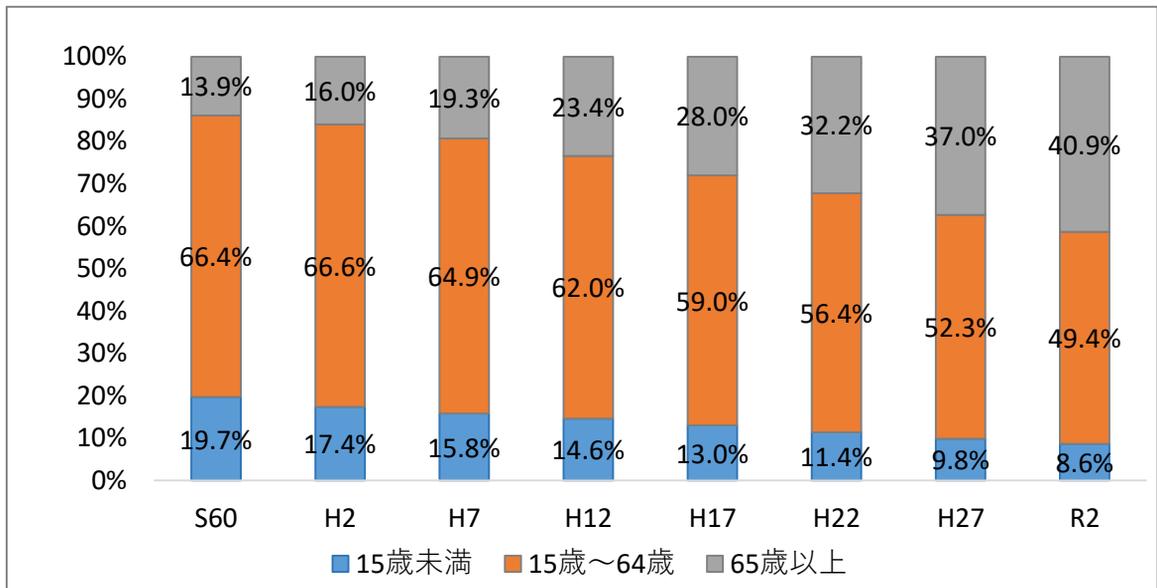
#### ②年齢3区分別人口



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」

### (3) 年齢3区分別人口割合の推移

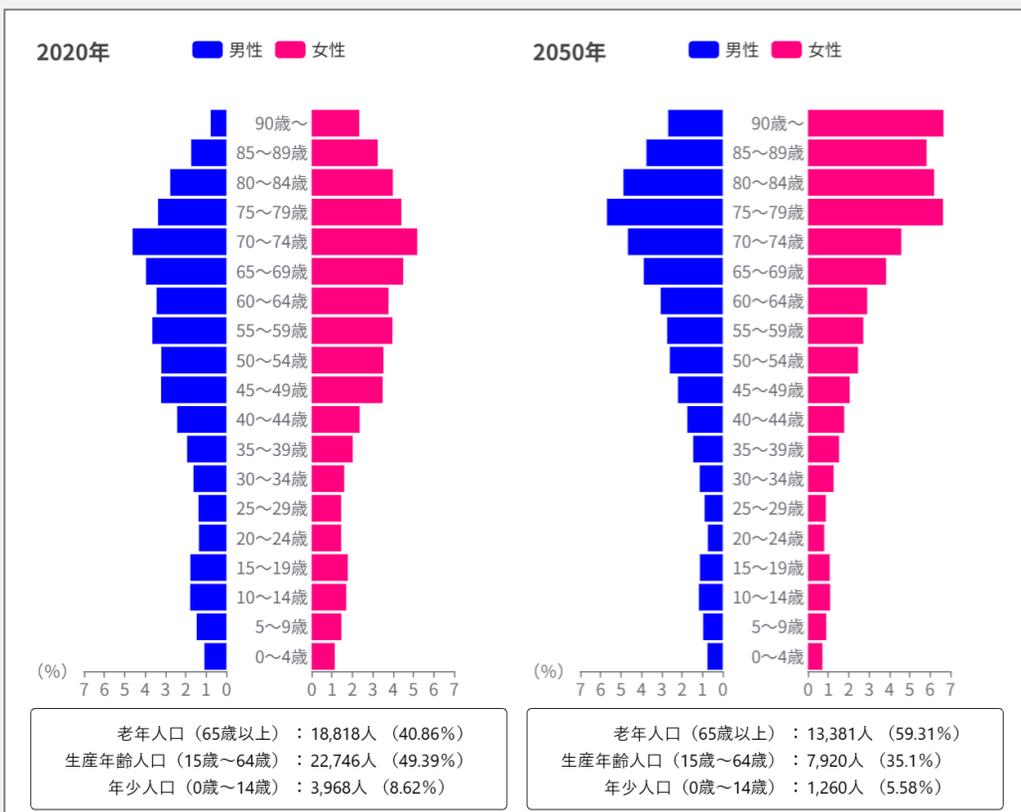
少子高齢化が進行し、65歳以上高齢化率は40%を超える状態となっています。



出典：「国勢調査」

### 【参考】志摩市の人口ピラミッド（2020年及び2050年(社人研推計値)）

2050年の65歳以上高齢化率は、約60%と予想されています。

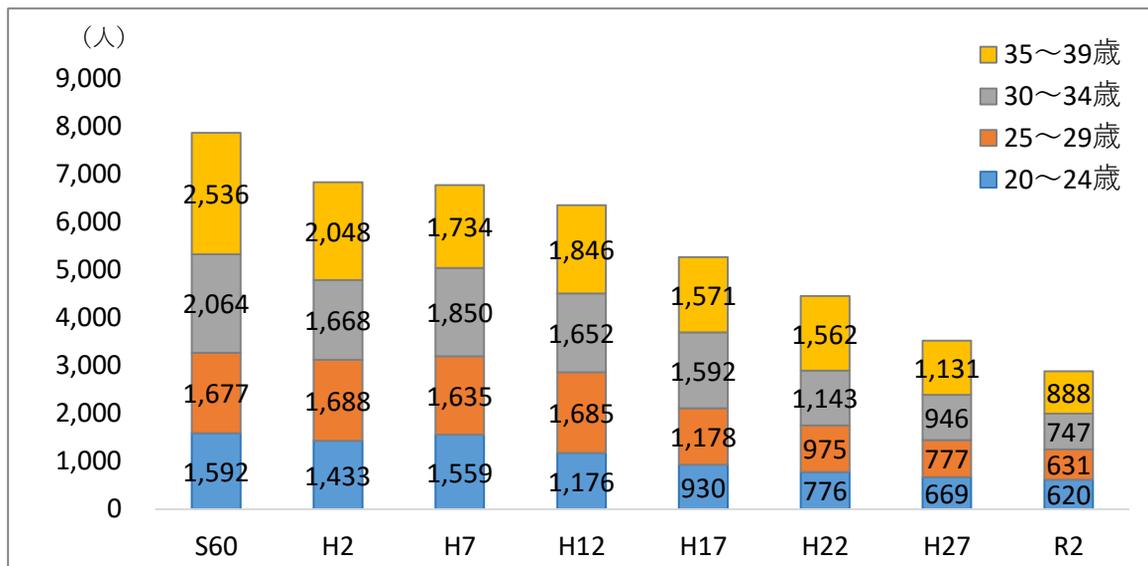


出典：「RESAS（地域経済分析システム）」

#### (4) 年齢・性別人口（20～30代）の推移

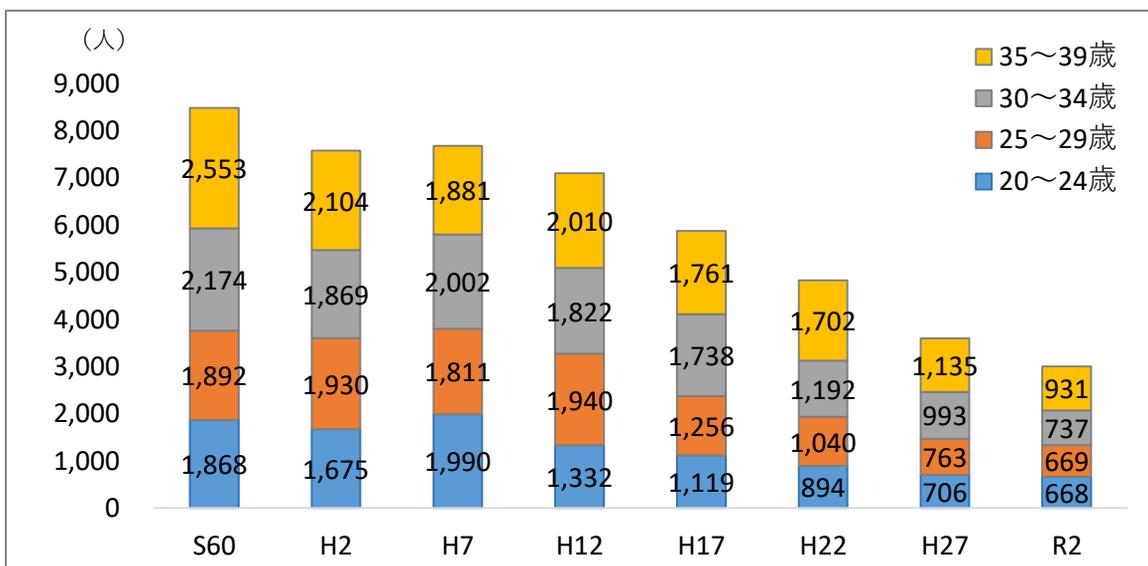
15歳～64歳の生産年齢人口の中でも特に若い世代の減少が進んでおり、平成17年時点と比較すると、15年経過した令和2年は男性・女性ともに約1/2の水準まで減少しています。

##### ①男性



出典：「国勢調査」

##### ②女性

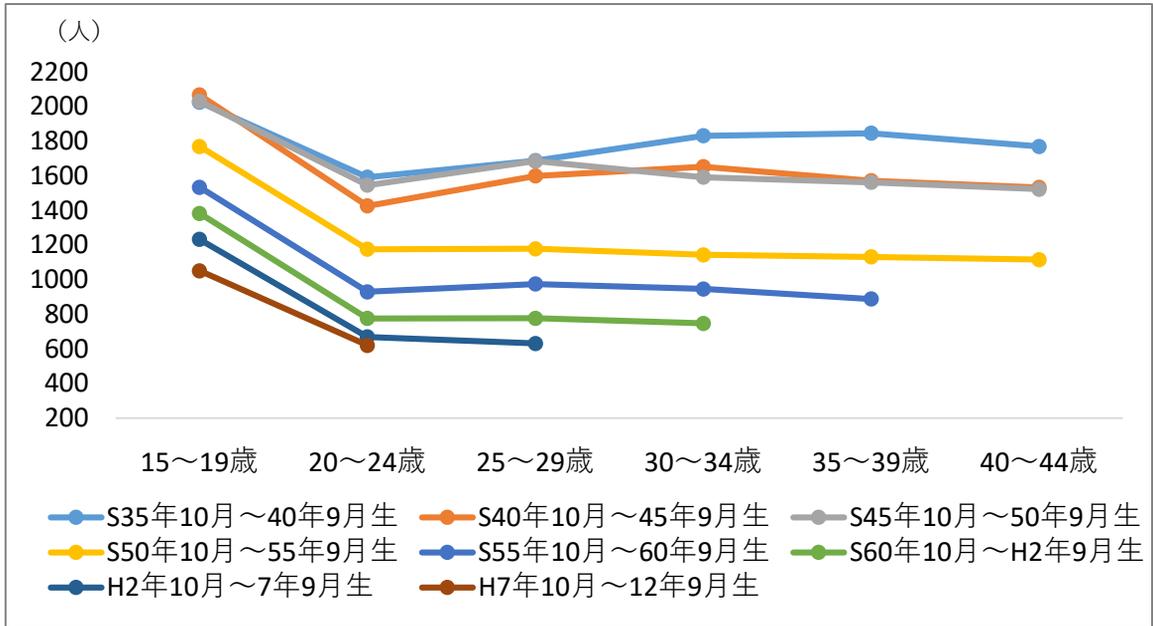


出典：「国勢調査」

## (5) 出生時期別人口の推移

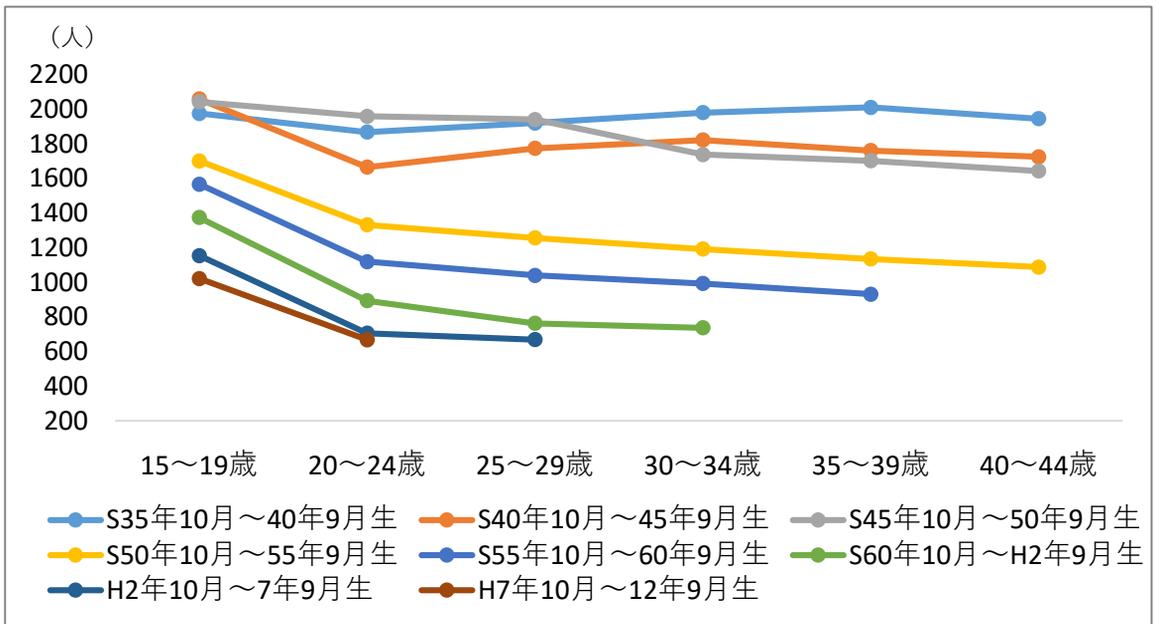
5年スパンの出生時期別で見ると、昭和50（1975）年9月生まれ以前の世代は、20～24歳時に減少するものの、25～29歳時には一定程度の増加が生じていました。一方、昭和50年（1975）10月生まれ以降の世代は、25～29歳時に戻りがほとんど生じておらず、近年はむしろ減少する傾向にあります。

### ① 男性



出典：「国勢調査」

### ② 女性



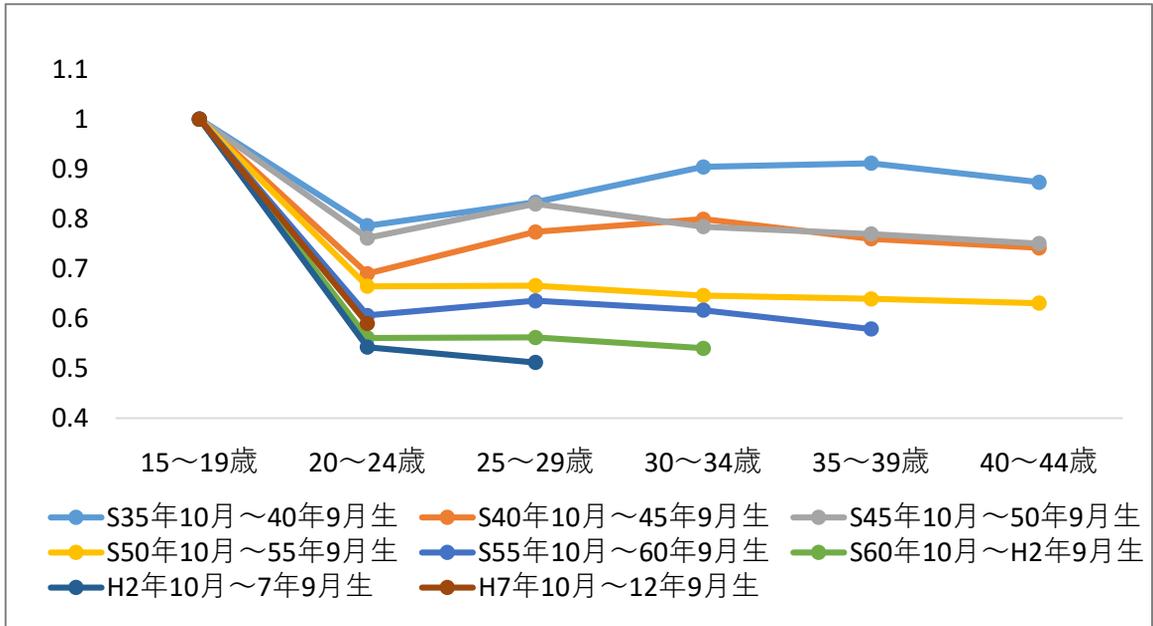
出典：「国勢調査」

## (6) 出生時期別 人口の推移

※15～19歳人口を1とした時の比率

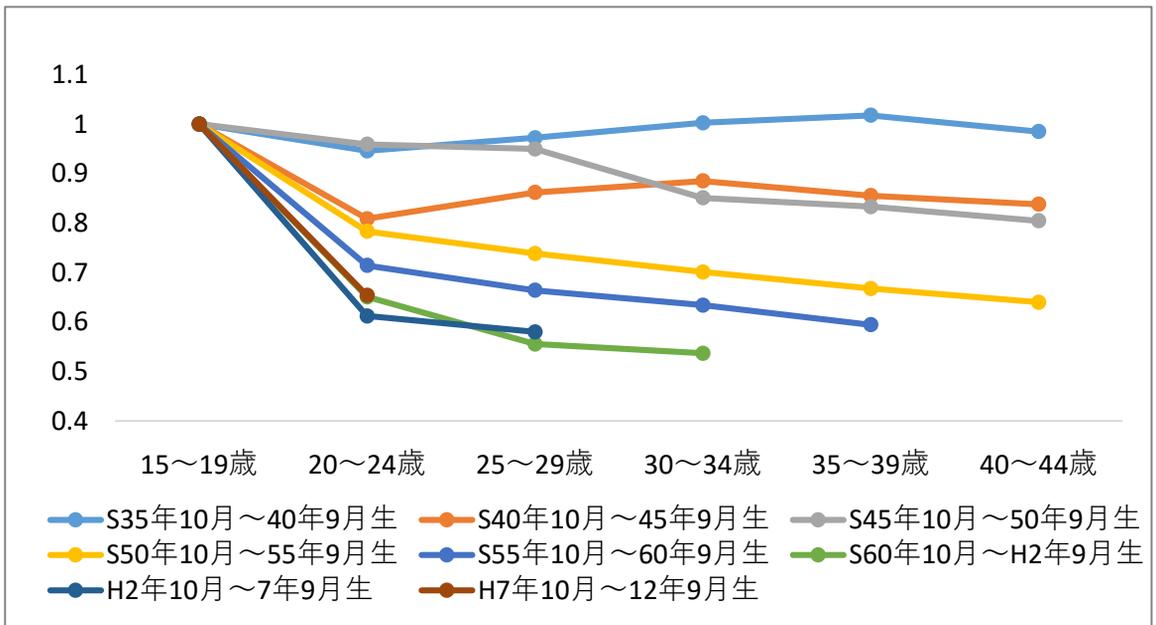
15～19歳人口を基準とした比率は、世代が進むにつれて年々小さくなっています。進学率の上昇もあってか、女性の転出傾向が、年々強まっていることがわかります。

### ①男性



出典：「国勢調査」

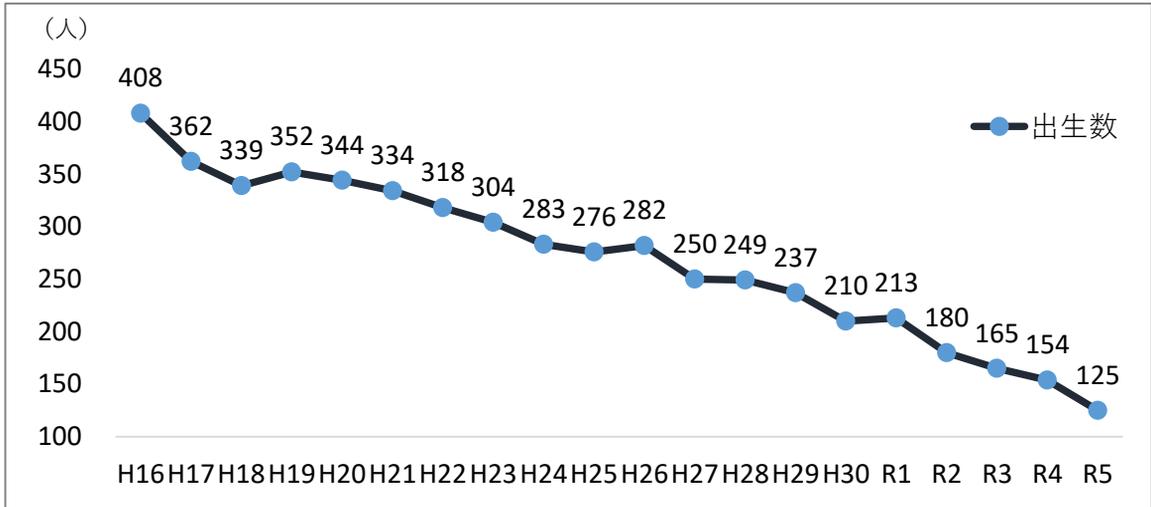
### ②女性



出典：「国勢調査」

## (7) 出生数の推移

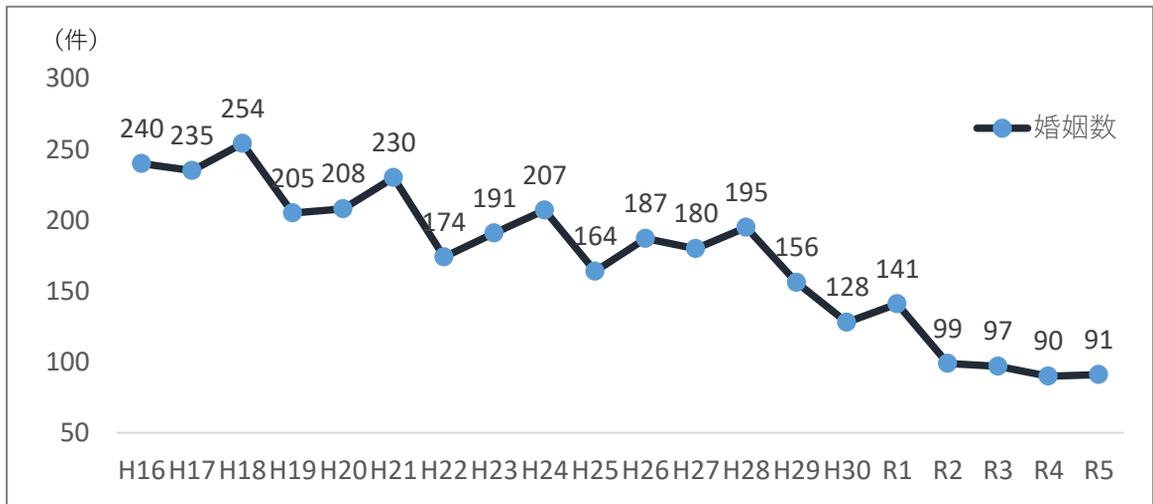
若い世代の減少に伴い、出生数は年々減少する傾向にあり、約20年前の平成17年時点と比較すると、令和2年は約1/2、近年は約1/3に近い水準まで減少しています。



出典：「人口動態統計」, 「三重県の人口動態」

## (8) 婚姻数の推移

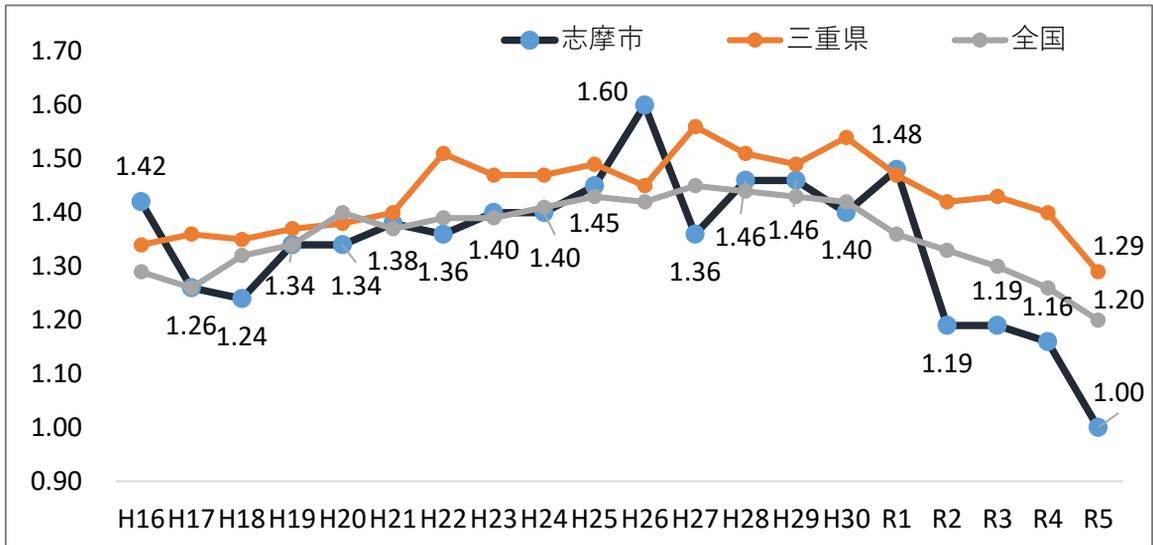
婚姻数は増減を繰り返しながらも、長期的には減少しています。全国的にも減少傾向にある中、近年は90件程度まで減少しています。



出典：「三重県の人口動態」

## (9) 合計特殊出生率の推移

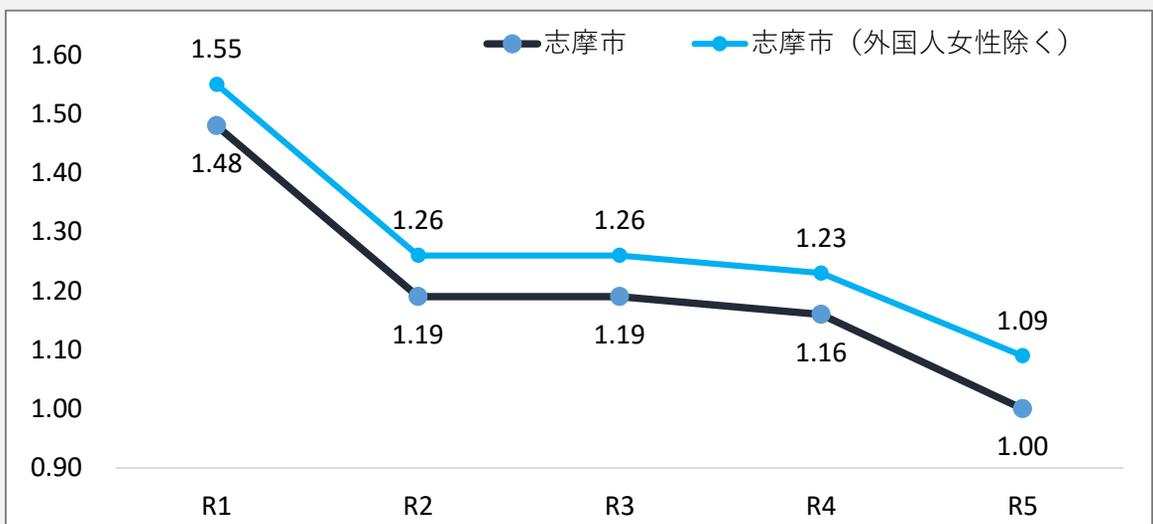
合計特殊出生率は、令和2年のコロナ禍前までは1.4前後で推移していましたが、近年、全国・三重県が減少傾向にある中、志摩市も過去最低の水準まで減少しています。



出典：「人口動態統計」,「三重県の人口動態」

### 【参考】 計算から外国人女性人口を除いた場合の合計特殊出生率推移

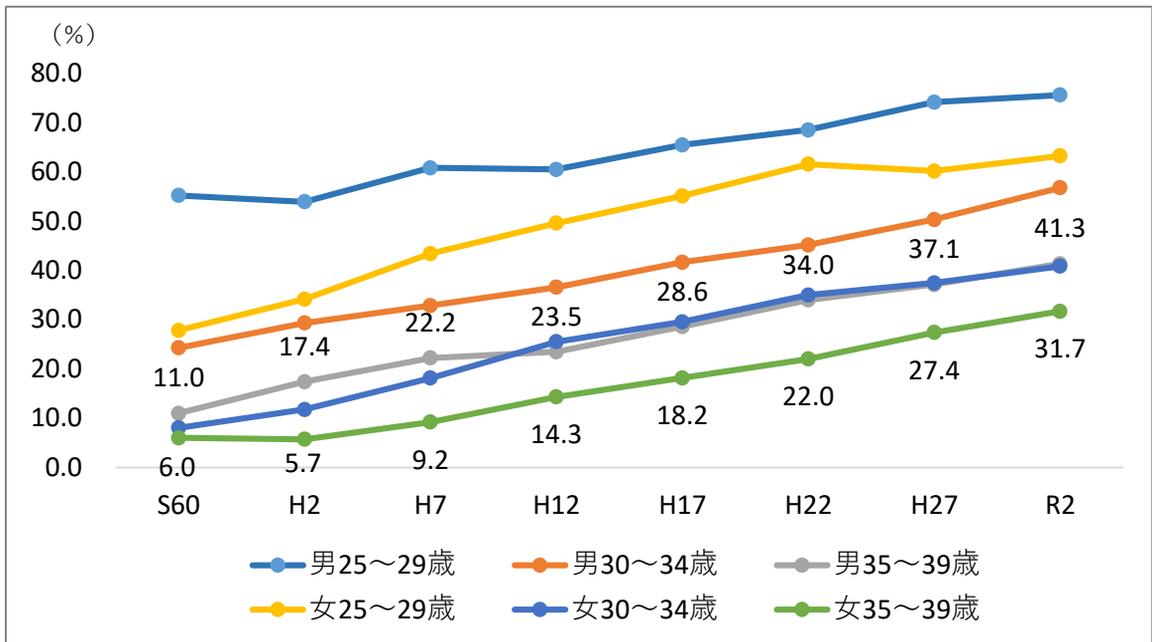
(9) のグラフにおいて、厚生労働省が公表する全国、都道府県（三重県）の合計特出生率の計算では、算出の計算式において分母の女性人口に外国人女性は含まれていない。一方、三重県が公表する県内市町（志摩市）の合計特殊出生率には、分母に外国人女性を含まれているため、比較するために同一条件で算出した場合は以下のとおりとなる（参考値）。



出典：「三重県の人口動態」,「住民基本台帳月報」に基づき市で独自算出

## (10) 未婚率の推移

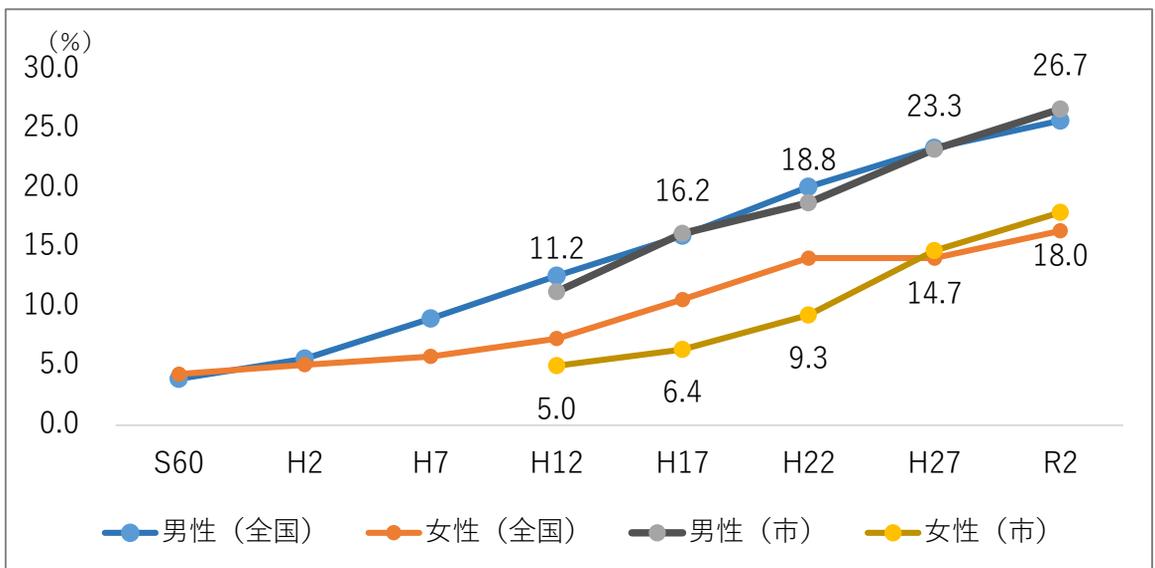
晩婚化・非婚化が進んでおり、令和2年国勢調査において、35～39歳の未婚率は、男性が4割、女性が3割を超える状況となっています。



出典：「国勢調査」

## (11) 50歳時未婚割合の推移

令和2年国勢調査の50歳時の未婚割合は、全国的な傾向と同様、男性の26.7%、女性の18.0%が未婚という結果になっています。上記グラフの平成17年の35～39歳の未婚率とほぼ同じ割合となっています。

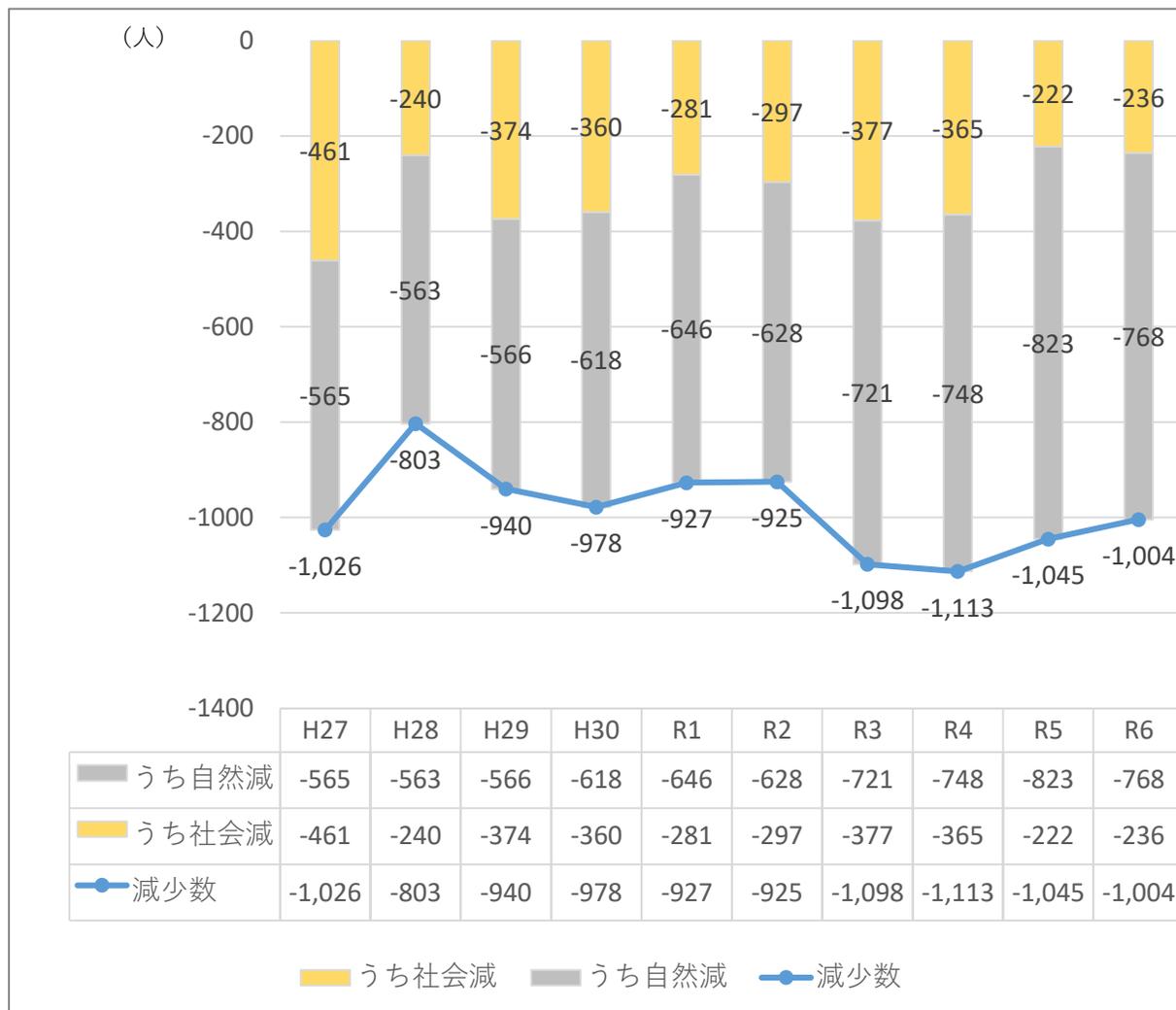


※ 50歳時の未婚割合 ……45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均。  
50歳時の未婚割合は「生涯未婚率」とも呼ばれる。

出典：「国勢調査」

## (12) 人口減少の内訳

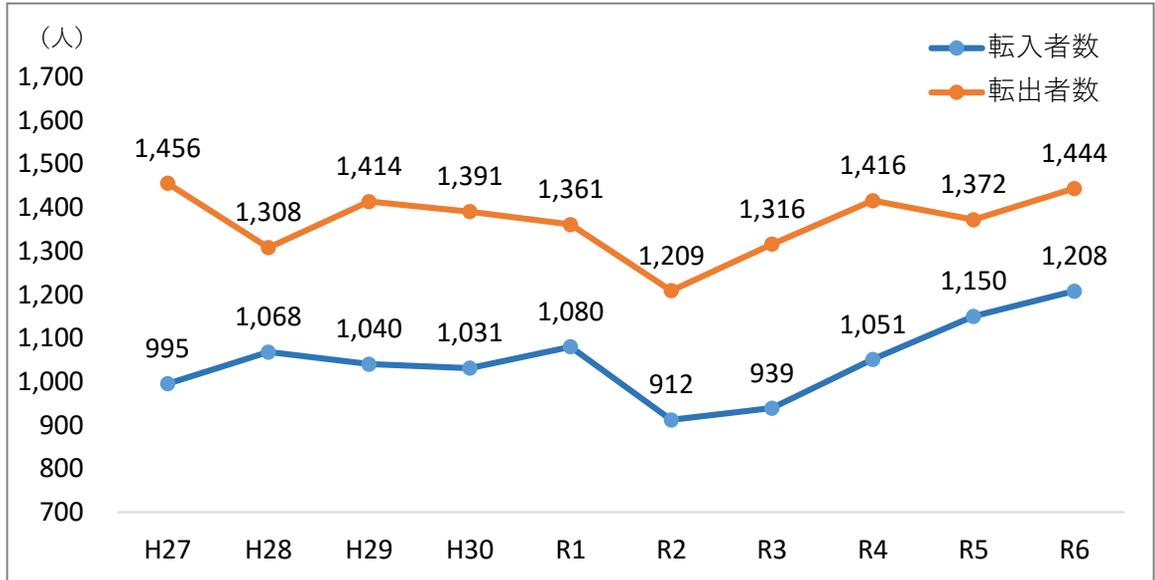
自然減については、高齢化による死亡者数の増加が影響し、増加傾向にあります。一方、社会減は、若者を中心とした転出超過が毎年300人～400人程度続いていましたが、直近の令和5年及び令和6年は230人程度となっています。



出典：「三重県月別人口調査」

### (13) 転入・転出者の推移

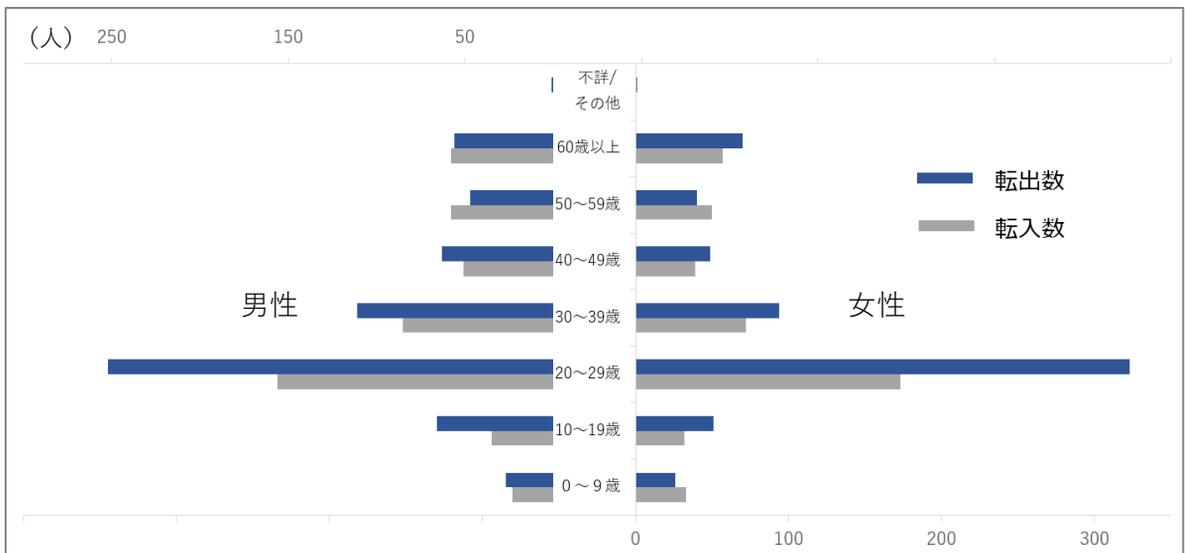
転出の動きはコロナ禍前と同様の水準に近づいています。一方、転入の動きは、令和2年以降、増加傾向にあり、令和6年は過去10年で最多となっています。



出典：「三重県月別人口調査」

### (14) 転入・転出者の年齢別構成（2024(令和6)年）

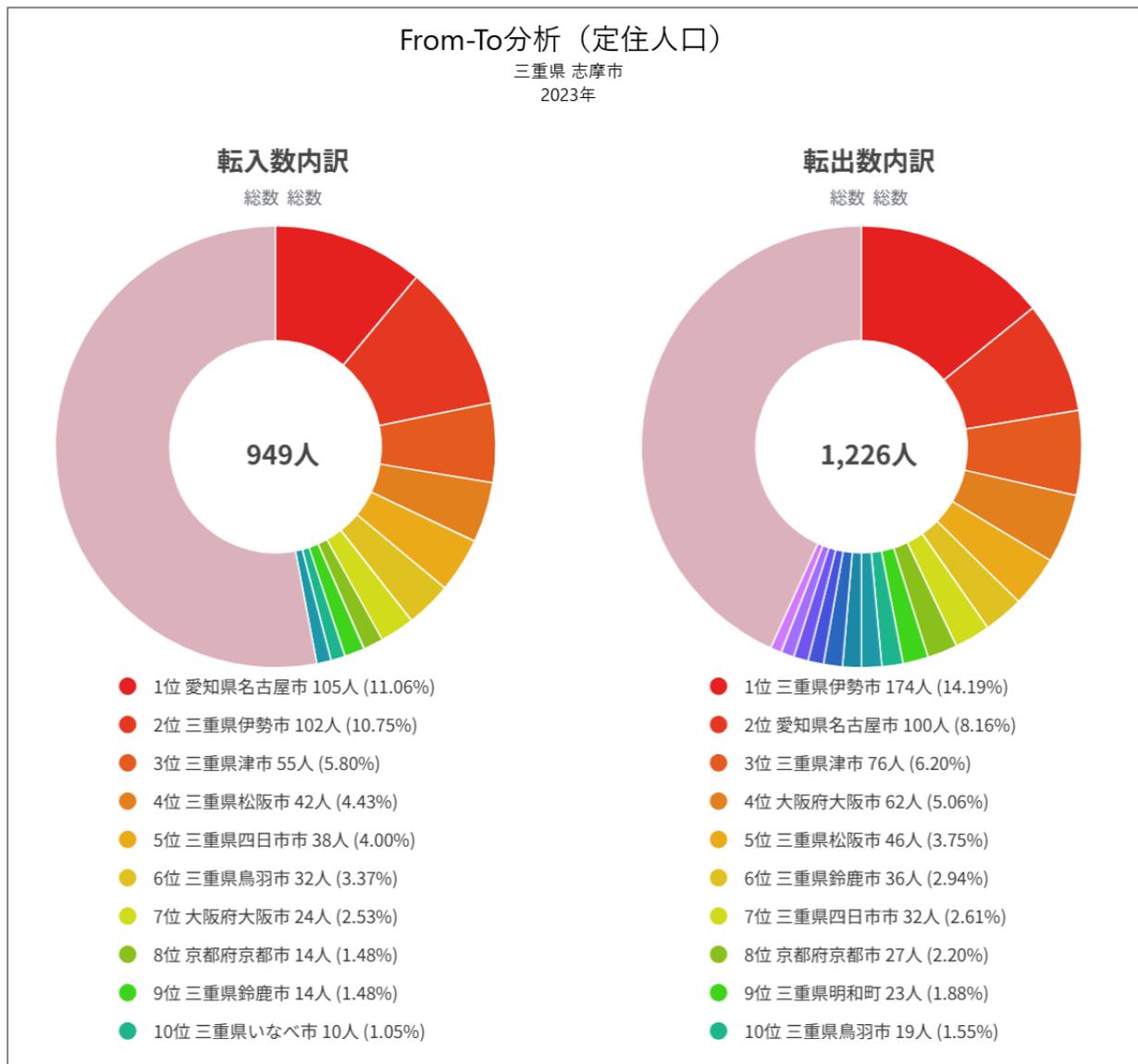
若い世代の転出超過が大きくなっています。中でも、20代女性の転出が一番多く、次いで20代男性が多くなっています。一方、50代、60代男性、10歳未満女性は、わずかながらも転入超過となっています。



出典：「住民基本台帳人口移動報告」

## (15) 転入数・転出数の内訳 (2023(令和5)年)

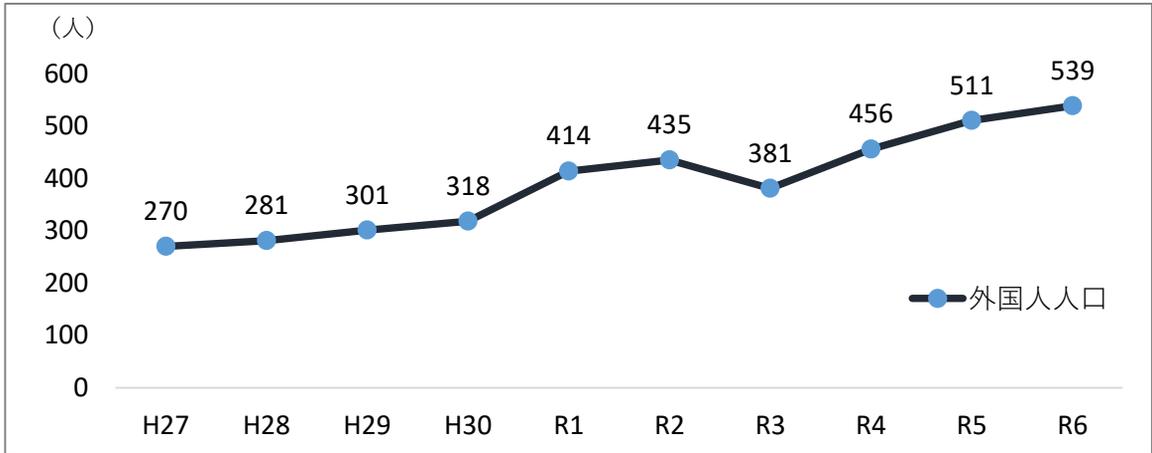
三重県内、名古屋市及び大阪市との間の人口移動が多くを占めています。転出数の面では、特に伊勢市との間で大きく転出超過となっています。一方、転入数の面では、鳥羽市、四日市市、名古屋市との間で、わずかながらも転入超過となっています。



出典：「RESAS（地域経済分析システム）」

## (16) 外国人住民人口の推移（各年12月末時点人口）

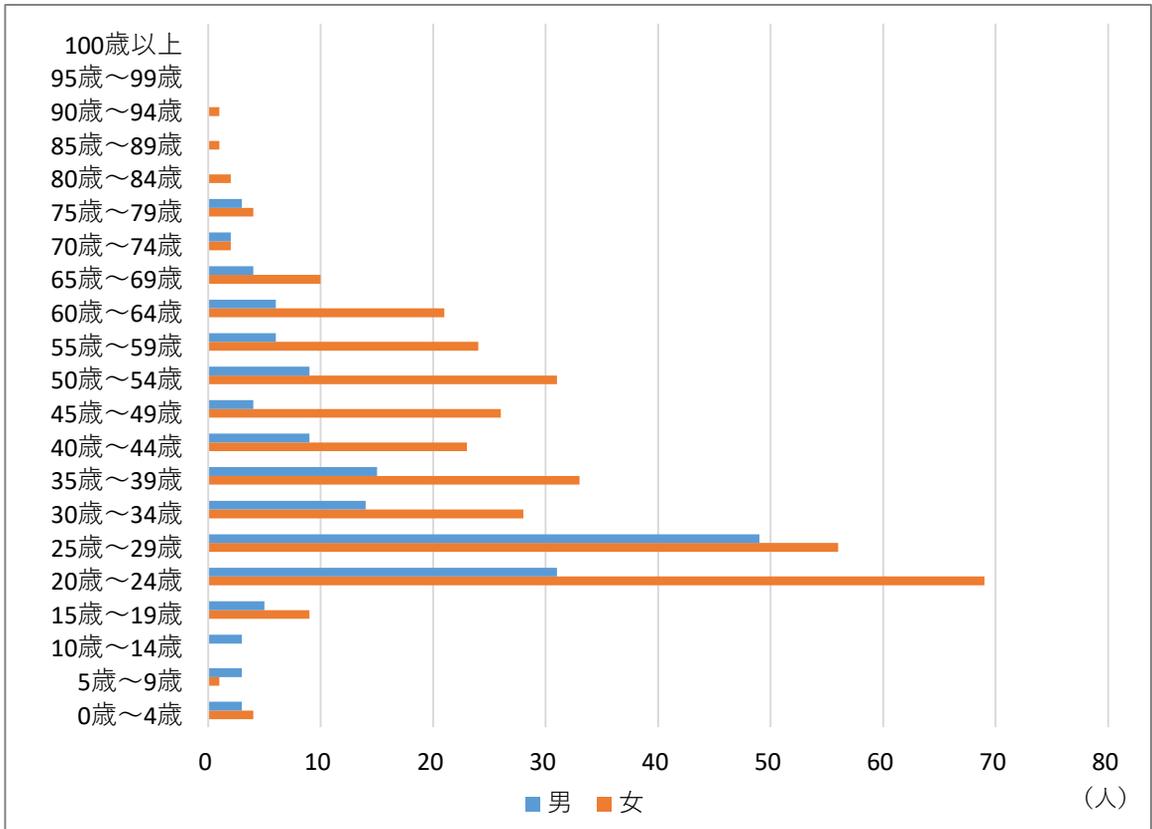
技能実習生等として居住する若い世代が増加しており、市内の外国人人口は、年々増加傾向にあります。



出典：「三重県外国人住民国籍・地域別人口調査」

## (17) 外国人住民の人口構成（令和5年12月末）

男性と女性の人口比率は、1：2となっています。また、20代・30代の女性が全体の約35%を占めています。



出典：「住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）（外国人住民）」